子どもたちの未来のために…
大人たちが抱える責任と未来予想図

いわき市まち・未来創造支援事業

被曝後のこれからを考える

小出裕章　講演会

2014年3月21日（金）13:00 開場 13:30 開演～ 16:30 終了
場所：いわき市文化センター 1F 大ホール
参加費：500円（チケット販売あり）
2011年3月11日の原発事故から3年が過ぎた2014年3月に、小出裕章さんをお迎えします。
使用済み核燃料棒のことは、海や地下への汚染と水流出のこと、問題を山積みにしてしまって月日は流れ、やがて幼い子どもたちが成長します。

私たち大人は、成長していく子どもたちに何を背負わせてしまったのか。そして、本当はどんな未来を願っていたのか。
起きてしまった事故の収束という.cornerRadiusしなくつくつろしい壁を見上げながら、子どもたちの未来のために、「今、しなければならないこと」を心の深い部分で感じ、考えてみませんか。
ぜひ、小出裕章さんのお話をお聞かせください。
一人でも多くのみなさんの御参加をお待ちいたしております。

小出裕章プロフィール

小出 裕章（こいで ひろあき、1949年8月29日 - ）は、日本の工学者（原子核工学）。京都大学原子炉実験所助手、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻助教。所属学会は日本保健物理学会、エントロピー学会。

研究分野は環境放射能解析、原子力安全、放射性物質の環境行動。

上野の自営業者の家族に2人兄弟の次男として生まれる。1968年、関西高等学校卒業。1972年、東北大学工学部原子核化学科卒業。1974年、東北大学原子能工学専攻修士課程修了（原子核工学）後、文部省に採用され、京都大学原子炉実験所に勤務している。関西高専時代には「地域部」で、野外で岩石や堆積層を追い求めながら自然に親しんだ。小出の兄弟は、千葉大学医学部を経て医科大学となったが、小出は「これからは石油・石炭ではなく原子力の時代」と考え原子核工学を学んだ。希望がかなう大学入学後は原子核工学を専攻。現在の原子核工学における放射線被爆への興味をもつ、原子力発電に反対している。以後現在まで一貫して「原子力をやめるために役に立つ研究」を行なっている。

著書

「3・11原発事故を語る」（2011年9月、本の泉社）共著：矢崎卓馬
「原発・放射能 子どもが危ない（2011年9月、文春新書）共著：黒田邦一
「原発のないふるさとを」（2012年2月、評論社）共著：土井重平
「いのちの原発か」（2012年3月、風間社）共著：中村昌浩
「原発だけがならず研究をつづける小出裕章さんのおはなし」（2012年3月、クレヨンハウス）小出監修、野村保子著
「原発核事故 六ヶ所村再処理工場」（2012年9月、集英社新書）
「原発核事故の深い闇」（2012年9月、宝島社）共著：一ノ宮英成、鈴木智樹、広瀬啓
「原発事故後の日本を生きるということ」（2012年11月、農産業村文化倉庫）共著：植田徹、中本哲朗
「原発は日本人 自分を売り物にしない」（2012年12月、角川書店）共著：佐藤信
「原発事故と農の復興：選べなければ、それはすむのか？」（2013年3月、コムズ）共著：明石哲夫、中島紀一、菅野正寿他、多数。

2014年3月21日（金）13:00開場 13:30開演〜16:30終了

場所：いわき市文化センター1F 大ホール（いわき市平字堂根町1-4 ☎0246-22-5431）
アクセス：JR常磐線・磐越東線いわき駅より徒歩15分 平塚町バス停より徒歩1分

参加費：500 円 チケット販売あり

チケット販売問い合わせ

NPO法人いわき放射能市民調査会 たちあち http://www.iwakisorutetsushitu.com/
TEL/FAX 0246-92-2526 Email tarachine@b04.plala.or.jp
☆チケットは既売り販売がございます。会場が定員になり次第、販売を終了させていただきます。
お振り込みで購入される方は、電話・FAX・Eメールにてお申し込みをお願いいたします。

託児：あり 2歳以上からお預かりいたします。
託児申し込み：TEL/FAX 0246-92-2526 Email tarachine@b04.plala.or.jp
☆FAX・メールでのお申し込みの場合、子どもの氏名・年齢・性別・保護者氏名・携帯電話番号をご記明してください。
託児の申し込みは託児の人数が定員になり次第、締め切らせていただきます。